

ワイヤレス介護・セキュリティシステム

Wireless Care Security System

MODEL LS-9001A

取扱説明書

特定無線設備の種類:	証明規則第2条第13号の無線設備小電力 セキュリティ
認証番号	: 01AZAA1007

日本セキュリティ機器販売株式会社 CSセンター

〒460-0006 愛知県名古屋市中区葵1-27-24
TEL 052-935-6833/FAX 052-935-6835

ごあいさつ

このたびはワイヤレス介護・セキュリティーシステムをお買上げいただき、ありがとうございます。

電気製品は正しく取り扱うことでより安全にご使用いただけます。間違った使い方は、火災や感電による人身事故につながる可能性があります。このような事故を防ぐためにもこの取扱説明書をよくお読みのうえ、注意事項を必ず守り安全に正しくお使いください。お読みになった後は、必ず保管してください。

本説明書をお読みになる前に

- ・ 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載漏れなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
- ・ 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りいたします。
- ・ 本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に対し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承願います。
- ・ 本製品の故障、及び日本セキュリティー機器販売株式会社以外の第三者による修理、その他理由による、損害及び逸失利益などに関し当社では一切その責任を負いかねます。
- ・ 本製品は防犯・介護等の緊急事態をお知らせする補助装置の為、万が一発生する損害及び逸失利益等に関し、当社では一切その責任を負いかねます。
- ・ 本製品はワイヤレス方式を採用していますので、使用される電波環境によっては誤作動を起こす可能性がございますのでご了承願います。

安全にお使いいただく為にお守りください

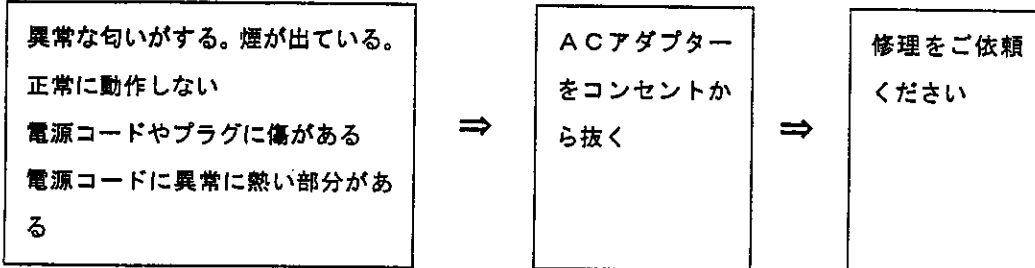


お買上げ店へ

警告

故障のまま使いつづけると、火災や感電、けがの原因となります。

・次のような症状が見つかりましたら、お買上げ店へお持ちください。



電圧 100V

・本器は日本国内用です。100V(家庭用 AC100V)を使用してください。異なる電源電圧を使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止



禁止

・電源コードやプラグに傷をつけない。

1. 電源コードやプラグを加工しない。
2. コード類を無理に曲げたり、ねじったりしない。
3. コード類の表面が溶けるのを防ぐため、熱機具に近づけない。
4. プラグ/ジャック類の抜くときは、コードを引っ張らず必ずプラグ/ジャックを持って抜く。
5. コード類の上には物を置かない



プラグを抜く

・機器を分解しない。

1. 故障や修理のときは、お買上げ店にご依頼ください。



分解禁止

・内部に水を入れない。

1. 水の掛かるような状況での使用はしない。火災や感電の原因になります。



水入れ禁止

2. 基本ユニットの上又はすぐ近くに水の入った容器や植木鉢等を置かない。



接触禁止

・雷が降り出したら電源コードやプラグには触れない。(感電の原因になります。)



濡れ手禁止

・濡れた手で電源コードの抜き差しはしない。(感電の原因になります。)

注意

・基本ユニットは水平又は垂直に取り付ける。1. 不安定な場所で使用すると、落下等で家財に傷を与える原因になります。

・基本ユニットは風通しのよい所に置く。

1. じゅうたんや布団などの柔らかい物の上には置かない。
2. 機器に布をかけない。
3. 暖房器具のそばや直射日光が当たる所で使用しない。

・基本ユニットの上には物を置かない。

1. 故障や壊れてけがなどの原因になります。特に小さな

お子様には注意をしてください。

- ・ときどきプラグやコンセントの点検をする。
 1. 長い間コンセント等を差し込んだままにしておくと、ホコリがたまり、湿気が加わることで電流が流れ火災の原因になります。
 2. 電源プラグなど外れかけたり破損している場合は危険です。

思わぬ事故を防ぐために (ときどき確認する)

- ・ コンセントの周りにホコリをためないようにする。
- ・ 電源プラグ及びコネクター類はしっかりと差し込まれているか確かめる。
- ・ コンセントやプラグに異常は無いか確認する。



★もし異常と思われるときは、すぐにお買上げ店にご相談ください。

目次

ごあいさつ	2
安全にお使い頂くために	3
目次	5
前書きとシステムの特徴	6
設置前のチェック項目	6
基本ユニットの特徴と管理方法	7
LS-9001A クイック設定手順	9
基本ユニットの初期設定	9
基本ユニットの基礎的な機能設定方法	10
センサー類の設定解除	12
緊急メッセージの録音	13
自動通報機能の設定	14
LS-9001Aの警備モード	16
基本ユニットの各アラームに対する応答早見表	18
基本ユニットからの通報に応答する	18
その他の設定	19
ドア窓センサー DS-2J	25
赤外線感知センサー PIR-2J	27
ワイヤレス介護セキュリティーシステムオプション一覧	30
故障かな？と思う前に	31
仕様書	33
保証書	34
FAXお問い合わせシート	36

前書きとシステムの特徴

この度はワイヤレス介護・セキュリティーシステム LS-9001A をお買い上げ頂き、誠に有難うございます。

LS-9001A は最新のマイクロ処理システム技術を使用し、お客様の家庭や仕事を 24 時間体制で守ります。LS-9001A は無線タイプなので、センサーをドアや窓に取り付け、基本ユニットをコンセントと電話回線に接続し、設置するセンサーのコード登録し、自動ダイヤル機能を設定して音声を録音するだけで誰でも簡単に使用する事ができます。

基本システムの使用に慣れ、さらに高度な警備をお求めになるときはお客様のニーズに合わせて LS-9001A を拡張したりオプションを増設する事が可能です。

主な特徴

- 侵入者、医療ヘルプ、その他の非常時に対応
- 最大 9 つのゾーンにセンサー設置が可能
- ドアと窓の開閉状態を感知
- 在宅モードでは警備個所の選択が可能
- 自動通報装置と音声録音装置が内蔵されており、最大 7 ヶ所の連絡先に通報可能
- 緊急事態の種類を識別し、それに合わせた録音メッセージによって連絡先に自動通報
- 内蔵スピーカーにより双方向の通話が可能
- 出先からの電話によって警備、警備解除の設定、または基本ユニット周辺の音声及び非常事態の知らせを聞くことが可能
- リモコンのコード設定は 470 万以上
- 体の不自由な方やお年寄りのための携帯型発信機(医療ヘルプ機能)
- 赤外線感知器を使って一人で在宅のお年寄りが一定時間活動しなかった場合にシステムが作動するように時間設定が可能
- 停電時にも作動するようバックアップモニター電源内蔵
- 豊富なオプション

設置前のチェック項目

LS-9001A は以下の機器により構成されています。

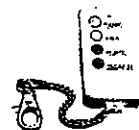
基本ユニット 1 台

基本ユニットは LS-9001A の「頭脳」です。各センサーやアラーム発信機からの信号を受け取る受信機と、アラーム作動時に最大 7 件の電話番号に通報する自動通報装置を内蔵しています。



リモコン 1 個 RC-2HJ

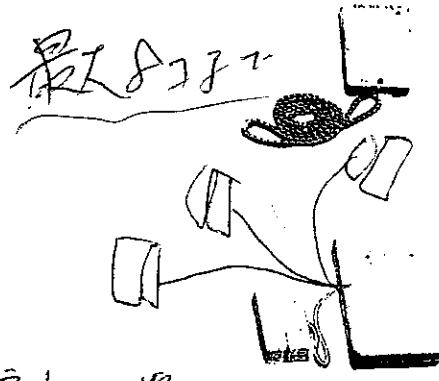
基本ユニットを遠隔操作する時に使用します。非常事態が起きたときに「緊急ボタン」を押すことによりシステムを作動する事ができます。(1.55V のボタン型酸化銀電池 SR44 内蔵)



最大 8 ヶ所

携帯型医療ヘルプボタン PT-2J

ボタンを押すと基本ユニットにアラーム信号を送信し、基本ユニットが登録連絡先に自動通報します。お年寄りや体の不自由な方等に便利です。



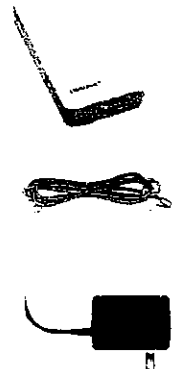
ドア窓センサー 1個 DS-2J

オフィスやご家庭の窓に取り付けて侵入者に備えます。ドアや窓が開けられるとマグネットセンサーが離れ、それにより基本ユニットにアラーム信号が発信されます。

マグネットセンサー-102

赤外線感知センサー 1個 PIR-2J

侵入者がセンサー感知領域を横切るとすばやく基本ユニットにアラーム信号を送信します。



モジュラーコード 1本

基本ユニットの自動通報装置を接続するために使用します。

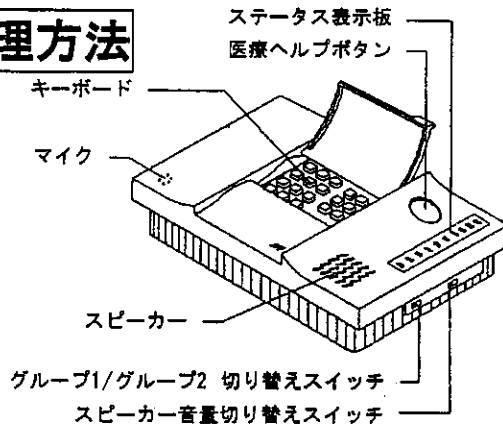
ACアダプター 1個

基本ユニットに電力を供給します。

取扱説明書 1冊

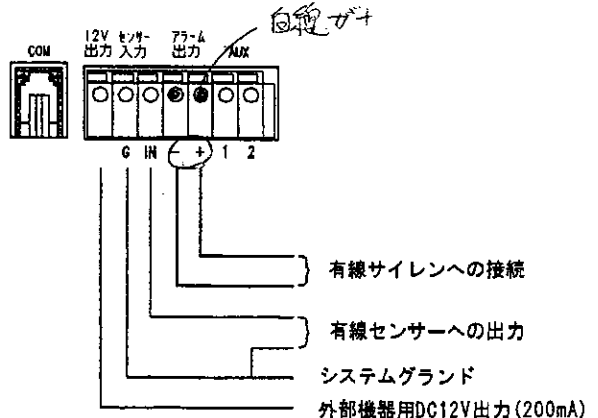
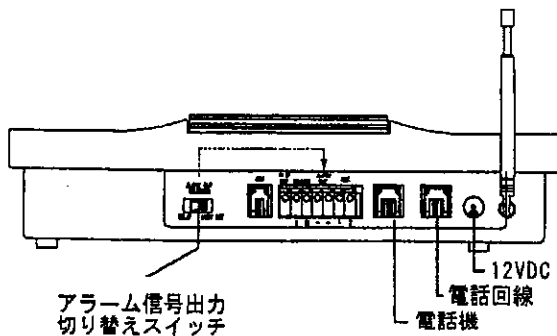
基本ユニットの特徴と管理方法

前面パネル

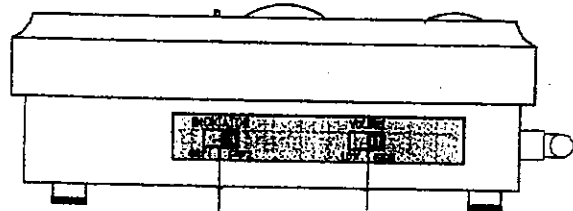


Y-21212
7222
320K

背面パネル



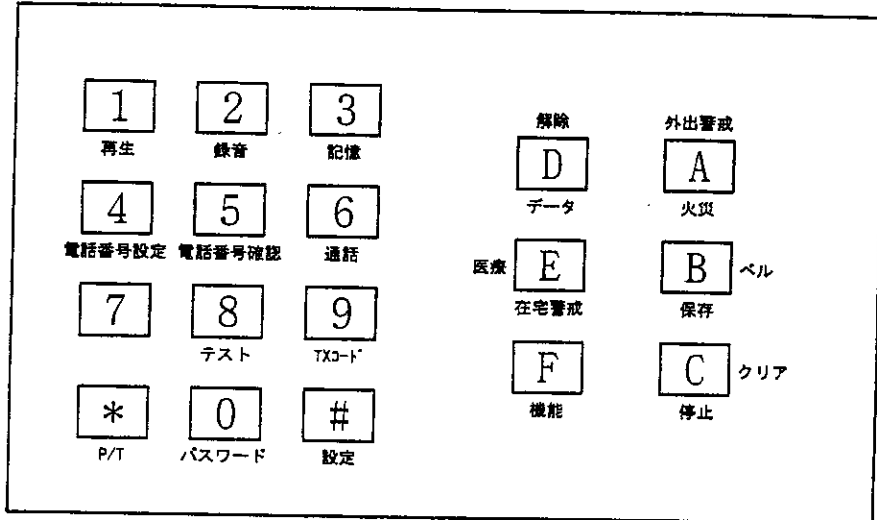
側面パネル



スピーカー音量 切り替えスイッチ

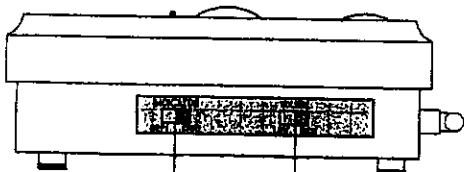
グループ1/グループ2 切り替えスイッチ

キーボード



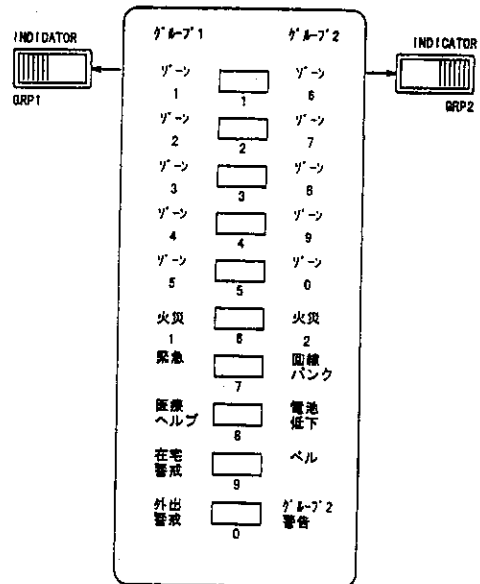
基本ユニットの操作を簡単にするため、各数字(アルファベット)キーには1つ以上の機能名が表示してあります。例えばEキーでは、同じキーに「医療ヘルプ」と「在宅モード」機能が割り当てられています。

ステータス表示板



スピーカー音量 切り替えスイッチ

グループ1/グループ2 切り替えスイッチ



このステータス表示板はマルチパーパス LED が様々な状況を表示します。センサー監視エリアはゾーン0～9の最大10個所に設定することができ、グループ切り替えスイッチ使用して、ゾーン1～5はグループ1でゾーン6～0を使用する場合はグループ2でそれぞれ状態を確認します。グループ1と2を両方使用する場合、グループ切り替えスイッチはグループ1に設定しておきます。グ

グループ2の何れかのゾーンで異常が発生したときに LED0 が点滅し、その時にグループ2にスイッチを切り替えると異常が発生したゾーンまたは基本ユニットのステータス LED が点滅し状況を確認することができます。通常はグループ切り替えスイッチをグループ1にしておき、LED0 が点滅したときのみグループ2に切り替えて状況を確認するようにしてください。また LED0～9 は設定された電話番号やどのゾーンが使用されているか、あるいは時間設定を確認する際に数字の0～9として使用されます。

例: 切り替えスイッチをグループ1に設定時に LED9が点灯、LED0 が点滅しているとき、システムは「在宅警備モード」で、グループ2が警告状態になっている事を表示しています。その時、グループ2に切り替えた際 LED8 が点滅していれば、内蔵のバックアップ電池の電圧残量が少ないことを表し、LED2が点滅していればゾーン7で異常が発生しているのを表します。

注意:

- ・ 警備解除モードでは、表示板の LED1 から 8 までが一巡り約 1.5 秒で順に点滅します。
- ・ グループ2で異常が発生し、適切な処置をした後にはスイッチを必ずグループ1の位置に戻してください。
- ・ LED1～8 まで何れかが点灯したままになっていれば、異常事態が発生していたことを表しています。
- ・ LED1～5(グループ1もしくはグループ2)までのいずれかがいつまでも点滅を続ける場合、該当する侵入者センサーが故障したかあるいは電池交換が必要であることを表しています。
- ・ センサー反応後に LED ステータス表示を消去するには F キーと C キーを押してください。

LS-9001A クイック設定手順

次の順番で LS-9001A システムを設定してください。

1. 内蔵バックアップ電池スイッチを ON にします(p. 10)
 2. リモコンやリモートキーパッド、使用するセンサー全ての ID コードを記憶させます(p. 11～12)
 3. 基本ユニットに以下の機能を設定します
 - ① 緊急メッセージを録音する(p. 13～14)
 - ② 電話番号を登録する(p. 14～16)
 - ③ その他の機能を設定する(p. 19～25)
 4. ドア窓センサーや赤外線感知センサー等を取り付けます(p. 25～29)
 5. 電話回線に接続します(p. 10)
 6. サイレンを取り付けます(オプション)、任意でサイレンの無線コードを設定します(p. 19)
 7. 無線電波が届くかどうかテストします(必要ならばセンサー類や基本ユニットの設置場所を変えてください)
 8. 自動通報機能をテストします
 9. その他の機能を設定していればテストします
- 詳細はこの後の設定方法をご覧ください。

基本ユニットの初期設定

基本ユニットの設置場所

各センサーからの送信信号が全て届くような場所に基本ユニットを設置してください。

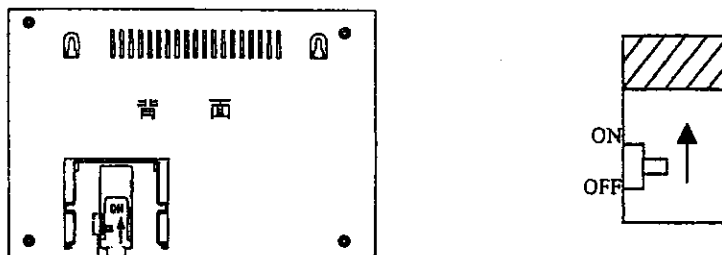
- ・ なるべくご家庭や仕事場の中心部に基本ユニットを設置してください。
- ・ 設置する際には大型の電気製品から距離を置くようにしてください。
- ・ 近くにコンセントと電話回線差し込み口がある場所を選んでください。
- ・ グループ1/2切り替えスイッチをグループ1に設定してください。

注意:

基本ユニットを破壊され、警備システム不能にされる可能性があるため、できるだけ侵入者等に見つかりにくい場所にユニットを設置することをお勧めします。

内蔵バックアップ電池を ON にする

基本ユニットを裏返し、電池カバーを開け、電池のスイッチを ON の位置に押ししてください。(下図参照)



注意:

停電等により外部からの電力がストップした場合、基本ユニットは内蔵バックアップ電池の電力を使用し、ステータス表示板はごくゆっくり(一巡り約8秒で)点滅し始めます。基本ユニットは約4時間作動します。バックアップ電池の電圧が低くなりすぎると、グループ2の「電池低下」サインが点灯します。

AC アダプターと電話回線を接続する

- ・ ACアダプターをコンセントに差し込んでください。スピーカーが2回ピーと鳴り、LED が点滅を始めます。
- ・ バックアップ電池に十分な残量があれば、LED1~8 までが約1.5秒で一周順番に点滅を始めます。残量がなければ LED0 が点滅しグループ2で電池の残量がわずかであることをお知らせします。電池の充電が行われると、警告サインは5分以内に消えます。
- ・ 電話機と基本ユニット背面パネルにある電話機差込口を接続してください。
- ・ 付属の電話回線コードを使用し、基本ユニットの電話回線差し込み口とご家庭、オフィス等の電話回線差し込み口(アナログ回線しか使用できません)を接続してください。

アンテナを立てる

- ・ 基本ユニットを床面に対して垂直に起こしてください。
- ・ よりよい感度を得るために、基本ユニット床面から1.5m以上のところに取り付けてください。

基本ユニットの基礎的な機能設定方法

LS-9001A が正しく作動するには以下の手順が必要です。

1. 基本ユニットに各センサーの無線コードを記憶させる
2. 緊急メッセージを録音する
3. 電話番号を設定する

重要:

- ・ 機能設定手順を中断、あるいは取り消したいときは F キーを押してください
- ・ メーカー側ではパスワードを設定しておりません。いったんパスワードを設定したら設定変更する際に F キーの前にそのパスワードを打ち込む必要があります。パスワードを設定したい場合は p. 20～21 の「パスワードを設定する」をご覧ください。

◆無線センサーと送信機のコード設定◆

LS-9001A は高性能のコード技術を使用しております。基本ユニットとセンサー類を連動させるためには、基本ユニットに各センサーの ID コードを記憶させる必要があります。(工場出荷時に各センサーにはランダムに選ばれた ID コードが割り当てられています。)

◇侵入者センサーの設定◇(ドア窓センサー、ガラス破壊センサー(オプション)、赤外線感知センサー)

F : 機能キーを押す

3 : 記憶キーを押す

D : D キーを押す

すでにコード登録されているセンサーがあれば、そのセンサーの設置ゾーン番号がステータス表示板に示されます。

: センサーを設置したいゾーンの番号を数字キーの 1～9 から選んで押す

その後、30秒以内に送信機のテストボタン(ドア窓センサー、ガラス破壊センサーは黄色のボタン、赤外線感知センサーは内部基板上の赤いボタン)を押してください。基本ユニットがピー音を2回ずつ、計4回鳴ります。

ゾーン 1 とゾーン 2 は警備解除モードでセンサー感知した場合基本ユニットがベルを鳴らしますので玄関と勝手口に割り当ててドアベルとして使用できます(p. 19参照)。また、外出時や帰宅時に警備を解除するための時間的余裕を設定する機能を備えています(p. 21～22参照)。ゾーン 0 は無活動モニターゾーンになります(p. 24参照)。

◇リモコン・ワイヤレスキーパッド・携帯型医療ヘルプボタンの設定◇

F : 機能キーを押す

3 : 記憶キーを押す

C : リモコン、ワイヤレスキーパッドの設定時

: 30秒以内にリモコンの場合は解除ボタン、ワイヤレスキーパッドの場合はキーパッドのボタンでパスワード4桁の数字と3を押しコードを登録

または

E :携帯型医療ヘルプボタンの設定時

□ :30秒以内に黄色いボタンを押しコードを登録

基本ユニットがピー音を2回ずつ、計4回鳴り、設定された装置が基本ユニットと連動して作動するようになります。1つのユニットにはリモコンとキーパッドが最大あわせて8個と最大8個の携帯型医療ヘルプボタンを設定することができます。

システム設定例:

例1:リモコンを設定する

F → **3** → **C** → 30秒以内にリモコンの「解除」ボタンを押す

例2:ドア窓センサーをゾーン1に設定する

F → **3** → **D** → **1** → 30秒以内に黄色いテストボタンを押す

例3:赤外線感知センサーをゾーン3に設定する

F → **3** → **D** → **3** → 30秒以内にプリント基板上にある赤いテストボタンを押す

例4:携帯型医療ヘルプボタンを設定する

F → **3** → **E** → 30秒以内に医療ヘルプボタンを押す

注意:

基本ユニットに有効なコードが30秒以内に受信されない場合、ユニットが1回ピーと鳴った後、設定中の機器の登録は無効になります。また、システム内にすでに記憶されているコードと同じコードを重複して受信した場合、基本ユニットは5回ピーと鳴ります。センサー類の ID コードを記憶させた後、正常に作動するかどうか確認してください。

センサー類の設定解除

コードを設定したセンサー類を解除したい場合は、その機器のコード記憶手順を繰り返した後、3秒以内に **C** キーを2回続けて押してください。

例:1 ゾーン3の侵入者センサーを設定解除する

F → **3** → **D** → **3** → **C** → **C**
3秒以内

例:2 リモコンを設定解除する

F → **3** → **C** → **C** → **C**
3秒以内

注意:

センサーや複数のリモコンやキーパッド、携帯型医療ヘルプボタンがコード設定されている場合この動作を行うと設定が全て解除されてしまいます。復帰させたいセンサー類及びリモコン等は再びコード設定し直してください。

緊急メッセージの録音

初期のメッセージは録音

電話回線が接続されると、LS-9001A システムは予め録音されている緊急メッセージを再生します。メッセージは以下のように区分別に録音してください。

区分1:(13秒間) あらゆる非常時に再生されます。名前、住所、電話番号を録音してください。

例:

「こちらは__です。住所は__です。電話番号は__です。」

区分2:(4秒間) 侵入者アラームが発信された時に再生されます。

例:

「侵入者がありました。」

区分4:(4秒間) 緊急アラームが発信された時に再生されます。

例:

「緊急事態が発生しました。」

区分5:(4秒間) 医療ヘルプ信号が発信された時に再生されます。

例:

「医療ヘルプです。」

アラームが発信されると、LS-9001A は自動的にアラーム信号の種類(侵入者、火災、緊急、医療ヘルプ)を識別し、予め設定されている電話番号にダイヤルして、対応するメッセージを流します。詳細はp. 18xの「各アラームに対する応答早見表」を参照してください。

◇緊急メッセージを録音する◇

① **[F]**:機能キーを押す

② **[2]**:録音キーを押す

④ **[]**:**ピー音の後、3秒以内に**録音したい区分の数字を押す

- ・ 録音する時はマイクから5~10cm 離れてください。
- ・ 静かな場所ではっきりと録音してください。

例:区分2の対侵入者メッセージを録音する

[F] → **[3]** → 3秒以内に**[2]** → ピーツ 録音「侵入者がありました」(4秒間) → メッセージを確認のため録音が再生「侵入者がありました」(4秒間)

◇緊急メッセージを再生する◇

F:機能キーを押す

1:再生キーを押す

1:3秒以内に再生したい区分の番号を押す
または3秒間待つと録音されたメッセージ全てが再生される

例:1 全てのメッセージを再生する

F → **1** → 3秒待つ → 全てのメッセージが再生される

例:2 区分2に録音されているメッセージを再生する

F → **1** → 3秒以内に **2** → 対侵入者メッセージが再生される

自動通報機能の設定

LS-9001A は32桁までの電話番号を最大7件登録することができ、アラームを受信すると設定した連絡先に自動通報します。電話回線に接続すると以下の手順で作動します:

- 登録先の電話番号に自動通報する
- 予め録音されている緊急メッセージを再生する

自動通報機能を設定するにあたって以下の事項に従ってください。またp. 18の「各アラームに対する早見表」を参照ください。

- メモリー1～4は侵入者、緊急、医療ヘルプアラームのいずれの場合も通報されます。ご自分の携帯電話やご友人、近隣の方またはご親族の電話番号の設定をお勧めします。
- メモリー5は侵入者アラーム受信の時のみ通報されます
- メモリー7は緊急アラームの場合のみに通報されます
- メモリー8は医療ヘルプアラームの場合のみに通報されます

注意:

通話が正しく接続されたことの確認のために、自動通報後に、連絡先側が「もしもし」等の音声応答をするか、連絡先電話機のプッシュボタンを押す必要があります。この確認がされない場合、基本ユニットはリダイヤルを始めます。p. 15～16「電話番号の設定」を参照してください。

◇パルス式またはトーン式ダイヤルモードの設定◇

ご使用の電話回線がパルス式かトーン式かを確認し基本ユニットで選択してください。

注意:

工場出荷時ではトーン式に設定されています。

F:機能キーを押す

◇登録した電話番号を確認する◇

- Ⓕ:機能キーを押す
- Ⓔ:電話番号確認キーを押す
- Ⓜ:電話番号を確認したいメモリーの番号を押す

ステータス掲示板に登録された電話番号のLEDが順番にゆっくりと点灯します。

◇登録されている電話番号を消去する◇

- Ⓕ:機能キーを押す
- Ⓖ:電話番号設定キーを押す
- Ⓒ:クリアキーを押す
- Ⓜ:電話番号を消去したいメモリーの番号を押す

LS-9001A の警備モード

LS-9001A はいろいろな時間や状況に合わせて、3種類の警備モードを設定することができます。

警備解除モード

基本ユニットは侵入者センサーに対するアラームは発信しませんが、緊急センサー及び医療ヘルプアラームに対するアラームは常に発信します。ドアベル機能をONにしておくことでゾーン1とゾーン2のセンサーはドアベルとして使用できます(p19ドアベル設定参照)。(ユニットに電源を入れた時はこのモードになっています。)

設定方法:

- A. 基本ユニットの Ⓕ → Ⓓ ボタンを押す
 - B. リモコンの警備解除ボタンを押す
- 基本ユニットがビーと鳴り警告状態がなければLEDが走査を始めます。

外出警戒モード

ご自宅や仕事場から外出される時は、基本ユニットを外出警戒モードに設定します。基本ユニットはこのモードにおいて全てのセンサーからの信号を受信し、どのセンサーが異常を感知した場合にもアラームを発信します。

設定方法:

- A. 基本ユニットの Ⓕ → Ⓐ ボタンを押す
 - B. リモコンの外出警戒ボタンを押す
- 基本ユニットがビーと鳴りLEDが走査を止め、LEDOの外出警戒表示部が点灯します。

在宅警戒モード

在宅警戒モードでは部分的にシステムを警備させることができます。例えば、外出警戒モード用にトイレに行くまでの廊下に赤外線感知センサーを設置したが帰宅して在宅警戒モードに切り替えた時、トイレに行くたびにセンサーを反応させたくない場合に赤外線感知センサーのみを設定解除にしたり、在宅時に2階建てのご自宅の2階部分のみ警備したい場合に1階部分のセンサー類を解除する事ができます。

設定方法:

1. 警備部分を選択する

F : 機能キーを押す

: 設定キーを押す

0**3** : 数字キーの0、3を押す

0 : 0を押す→赤外線感知センサーの警備を解除

1を押す→奇数ゾーン(ゾーン1、3、5、7、9、)のセンサーを解除

2を押す→偶数ゾーン(ゾーン2、4、6、8、)のセンサーを解除

2. 在宅警戒モードを設定する

A. 基本ユニットの **F** → **E** ボタンを押す

B. リモコンの在宅警戒ボタンを押す

基本ユニットがピーと鳴り LED が走査を止め、LED9の在宅警戒表示部が点灯します。

例: 2階建ての家で1階部分に奇数ゾーン登録のセンサーを、2階部分に偶数ゾーン登録のセンサーを設置し、在宅時に2階のみ警備したい場合

F → **#** → **0** → **3** → **1** → **F** → **E**

奇数ゾーンの警備解除 在宅警戒モードの設定

注意:

LS-9001A システムが外出警備モードか在宅警戒モードに設定すると、基本ユニットは各ドアセンサーの状態の確認を行います。もしドアセンサーがドアを開いていることを感知すると、基本ユニットは対応するゾーンの LED を点滅させ警告音を鳴らし、ドアの確認を促します。

基本ユニットの各アラームに対する応答

様々なアラームや異常事態に対する LS-9001A の応答は次ページの表に詳しく記述してあります。侵入者アラームは在宅及び外出警戒モードの時のみ発信します。一方、緊急、医療ヘルプアラームはどの警備モードの時にも発信します。これらのアラームが発信された時、自動通報装置が作動します。連絡先の電話が取られると、アラームの種類に対応する音声メッセージが再生されます。自動通報を中断させ、サイレンを止めたい場合はシステムを警備解除モードにしてください(p16参照)。その後表示板に残るアラーム表示を **F**、**C** を押して消去してください。

基本ユニットの各アラームに対する応答早見表

	センサーの種類	通報の順番	音声メッセージの区分	スピーカーの音声有無	サイレン(オプション)	LED の表示
侵入者アラーム	赤外線感知センサー ドア窓センサー ガラス破壊センサー	1、2、3、4、5	区分1、2	なし	鳴る	センサー反応したゾーンのLED点滅後、点灯
緊急アラーム	リモコンの緊急ボタン ワイヤレスキーパッド	1、2、3、4、7	区分1、4	なし	鳴る(選択可) 「緊急アラームお知らせ機能」 p. 25参照	緊急LED点滅後、点灯
医療ヘルプアラーム	携帯型医療ヘルプボタン 基本ユニットの医療ヘルプボタン	1、2、3、4、8	区分1、5	区分5のメッセージ再生(連絡先と電話接続時)	鳴る(選択可) 「医療ヘルプアラームお知らせ機能」 p. 25参照	医療ヘルプLED点滅後、点灯
タンパー(対いたずら)アラーム	赤外線感知センサー ドア窓センサー ガラス破壊センサー ワイヤレスキーパッド	なし(警備解除時)	なし(警備解除時)	なし(警備解除時)	鳴る(選択可) p. 24参照「タンパーアラーム発信お知らせ」(警備解除時)	いたずらされたセンサーのゾーンのLED点滅(警備解除時)後点灯、
		侵入者アラームの場合と同じ(警備設定時)				
センサー故障または電池切れアラーム	赤外線感知センサー ドア窓センサー ガラス破壊センサー	なし	なし	なし	鳴らない	センサー反応したゾーンのLED点滅継続

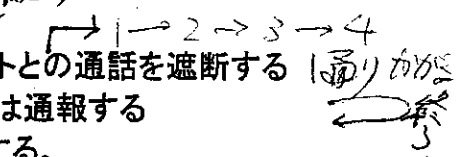
基本ユニットからの通報に応答する

基本ユニットから電話がかかってきた時、ユニット付近にいる人と通話したり使用中の電話を操作するには次に示される手順を行ってください。

- ・ 音声メッセージが再生されシステムにどのような異常事態が発生したのかをお知らせします。
- ・ メッセージ再生後、システムのスピーカーが30秒間作動し、基本ユニット付近の物音を聞くことができます。また在宅の人と通話することも可能です。
- ・ 使用中の電話のボタンでユニットを操作することができます。
 - 0ボタンを押す: サイレン、次の連絡先への通報。ユニットとの通話を遮断する
 - 1ボタンを押す: ユニットとの通話を遮断し、次の連絡先は通報する
 - その他のボタンを押す: スピーカー機能を30秒間延長する。

もしも
に声を出
しな

00 2回でサイレンとアラームが下通報し



① 携帯機 (HOLD) をおいて切りと赤外線登録機
電話がかかってくる

その他の設定

◇ゾーン1と2をドアベルとして設定◇

警備解除モード時にゾーン1と2をドアベルとして使用できます。
工場出荷時にはドアベルが設定してあります。

F :機能キーを押す

B :ベルキーを押す

:0を押すと設定が解除され1を押すと設定されます。

◇ワイヤレスサイレン(オプション)のコード登録◇

ワイヤレスフラッシュ付きサイレンを使用する時コード登録を行います。工場出荷時には1、6、8がONになっています。お好みによりサイレン裏面にあるディップスイッチのONの番号を変えてください。

F :機能キーを押す

9 :TXコードキーを押す

D :Dキーを押す

すでに登録されているコードがステータス表示板に示されます。

:サイレンのディップスイッチでONになっている番号を押す

B :保存キーを押す

例:サイレンのディップスイッチの2、4、6、8をONにした場合

F → **9** → **2** → **4** → **6** → **8** → **B**

ディップスイッチのONの数字

◇基本ユニットをスピーカー電話として使用する◇

基本ユニットはスピーカーホンとしても使用できます。ユニットと接続している電話のベルが鳴ったら医療ヘルプボタンを押すだけでユニットを使って通話できます。

かかってきた電話に出る:

- ① ユニットと接続している電話のベルが鳴る
- ② 基本ユニットの医療ヘルプボタンを押す
- ③ 基本ユニットがスピーカーホンとして使用できる
- ④ 電話をきる時にはもう一度医療ヘルプボタンを押す

ベースユニットを使って電話をかける:

- ① **F** ボタンを押し **6** の電話ボタンを押すとユニットからトーン音が聞こえる
- ② 電話番号を押し、相手が出るのを待つ
- ③ 会話が終わったら **F** ボタンを押し、電話を切る

◇パスワードを設定する◇

パスワードを設定することで機能キーを押す前にパスワードを入力しない限り各機能を設定・解除できなくなります。また、間違ったパスワードが入力された場合基本ユニットが1回ピーと鳴り、もう一度入力するよう促します。工場出荷時の初期設定では0000に設定されています。

F :機能キーを押す

0 :パスワードキーを押す

□□□□ :パスワードを4桁入力する。ピー音が1回鳴る

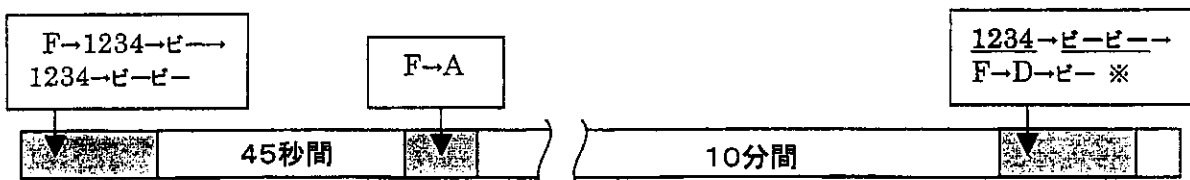
□□□□ :確認のためもう一度パスワードを入力する。ピー音が2回鳴る(入力を間違えた場合ピー音が1回鳴ります。もう1度初めからやり直してください。)

重要:

- ・ パスワードを設定している時は、機能キー(F キー)を押す前に、パスワードを入力し、ピー音が2回鳴ったらコマンド設定してください。パスワードを間違えて入力した場合ピー音が1回鳴るのでもう1度入力し直してください。(図解※参照)
- ・ パスワードを設定またはパスワードを入力すると1分間だけパスワードの入力なしでシステムを操作することが可能です。この1分間で何れかのキーが入力されるとさらに1分間延長されます。最後にキーが押されてから1分間経つとシステム設定の前にパスワードを入力しなければなりません。(図解参照)

■ 図解 ■

☆パスワードを1、2、3、4と設定し外出警戒モードにし、10分後に警備解除したい時



パスワードを変更、またはキャンセル(0000 にする)は前の操作で最後のキーを押していたら最低1分間待ってから実行してください。

例1: 1、2、3、4と記録されているパスワードをキャンセルしたい時

最後のキータッチから最低1分間待つ → 1 2 3 4 → ビービー

→ F 0 0 0 0 0 → ビー → 0 0 0 0 → ビービー

例2: 1、2、3、4と記録されているパスワードを4、3、2、1に変更する時

最後のキータッチから最低1分間待つ → 1 2 3 4 → ビービー

→ F 0 4 3 2 1 → ビー → 4 3 2 1 → ビービー

◇信号連動確認テスト◇

このテストモードではサイレンや自動通報装置を作動させずに、基本ユニットとセンサー類が連動しているかを調べられます。このテストモードにすると、基本ユニットが火災、緊急、医療ヘルプ、タンパー信号等を受信した時ベル音が鳴るようになります。テストモードは設定してから3分間で終了します。このテストモードはタンパー回線内蔵のセンサー類やワイヤレスキーパッドの電池交換の時に使用すると便利です。

F:機能キーを押す

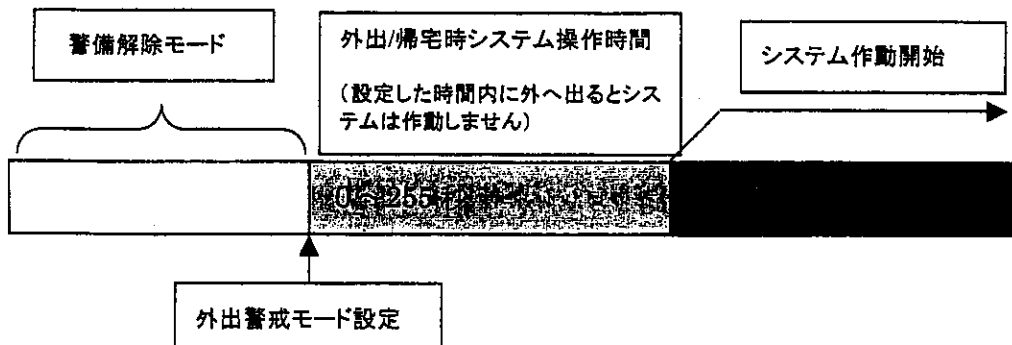
8:テストキーを押す

◇外出/帰宅時のシステム操作時間の設定◇

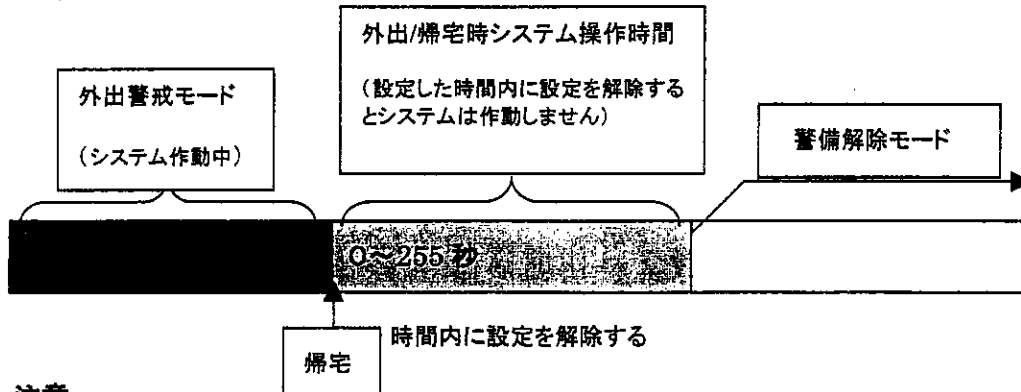
この設定ではシステムを在宅、外出警戒モードに切り替えた時または在宅、外出警戒モードから警備解除モードに切り替える時に、切り替えてから実際にシステムが作動するまでに猶予時間を設けることができます。ゾーン1と2にのみ設定可能です。工場出荷時には0秒に設定されています。

■ 図解 ■

☆出かける時に外出警戒モードに設定する時

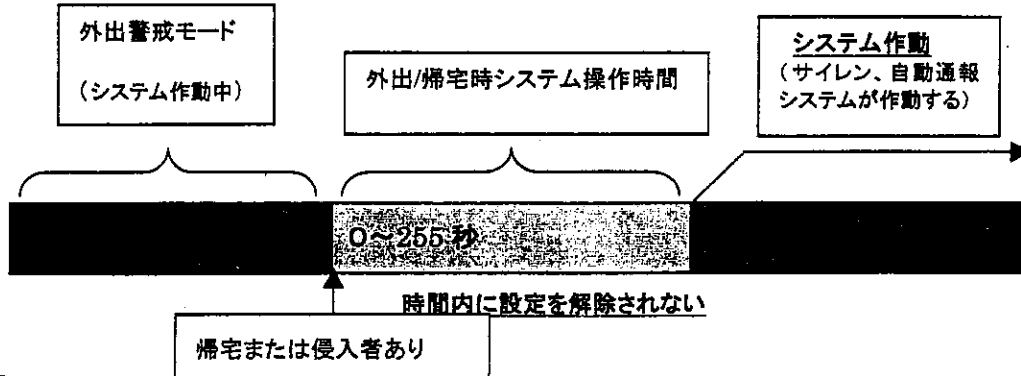


☆帰宅時に時に外出警戒モードを解除する時



注意:

☆外出時に侵入者が入った場合または操作時間内にシステム解除されない場合



[F]:機能キーを押す

[#]:設定キーを押す

[0][1]:数字キー0と1を押す(表示板に最初に設定された秒数が表される)

[][][]:0~255秒間で希望の設定時間を押す。2桁以下の秒数の場合は最初に0を足して3桁にする。

例:設定時間を30秒にする場合

[F] → [#] → [0] → [1] → [0] → [3] → [0] → ビービー

◇アラーム信号出力時間◇(工場出荷時は60秒に設定されています)

オプションのワイヤレスフラッシュライト付きサイレンが作動する時間を^{一般に}0~255秒の間で設定できます。

[F]:機能キーを押す

[#]:設定キーを押す

[0][2]:数字キー0と2を押す(表示板に最初に設定された秒数が表される)

□□□ : 0~255秒間で希望の設定時間を押す。2桁以下の秒数の場合は最初に0を足して3桁にする。

例: 設定時間を30秒にする場合

F → # → 0 → 2 → 0 → 3 → 0 → ビービー

◇かかってきた電話に対する自動応答◇(工場出荷時は設定されていません)

この設定により出先のトーン式電話でシステムを遠隔操作したり現場の音声を聞いたりできます。ただし、最初にユニットがかかってくる電話に対して自動応答するように設定しなければなりません。

F : 機能キーを押す

: 設定キーを押す

04 : 数字キー0と4を押す(表示板に最初に設定されたコール回数が表される)

□□ : 03~30回の間で希望のコール回数を押す。またこの設定を解除する場合は C キーを押す。

注意:

- ・ この機能を設定する場合、同じ電話回線に FAX 等の自動応答機能付きの電話を接続しないでください。また、留守番電話機能付きの電話を使用する場合は機能を停止して接続してください。
- ・ コール回数を4回以下にすると電話回線のノイズによりシステムが誤作動する恐れがあるので必ず5回以上に設定してください。

◇出先の電話からの基本ユニットの遠隔操作◇

かかってくる電話に対する自動応答を設定した後、以下の手順に従って基本ユニットを遠隔操作することができます。

1. 基本ユニットが接続されている電話にダイヤルする。
2. 設定コール数後、3回ビー音が聞こえる。
3. 30秒以内におかけの電話機の * ボタンと設定したパスワードの数字のボタン(設定していない場合は0000)を押す。パスワードが正しければビー音が聞こえる。間違えた場合はもう一度 * ボタンとパスワードの数字のボタンを押す。
4. 現場の状況を60秒間チェックできる。または60秒の間に以下の番号を押すとシステムを遠隔操作または60秒間延長して現場の状況をチェックできる。

0 : システムを警備解除モードにする(ビー音が4回鳴る)

1 : システムを外出モードにする(ビー音が2回鳴る)

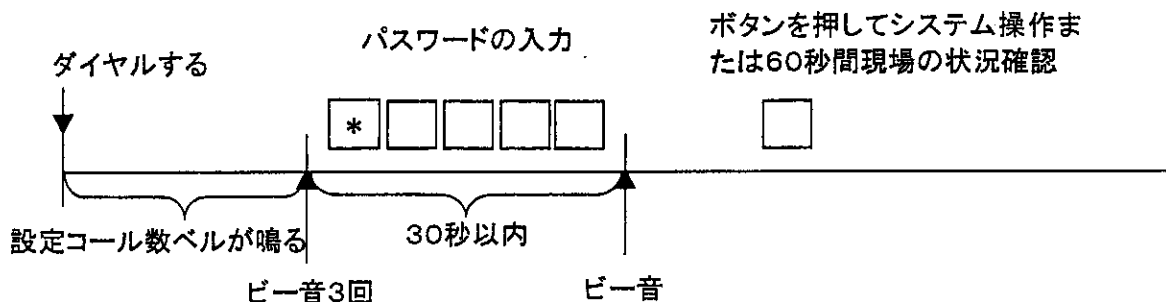
2 : 異常が起きていないかチェックする(異常ありの場合は音声が再生、異常がなければビー音が鳴る)

5 : 双方向での通話を可能にする(ビー音が鳴る)

9 :現場の状況チェックを終了する

□ : (その他のボタン)60秒間延長して現場の状況をチェックできる(ビー音が鳴る)

■ 図解 ■



◇ 無活動モニター機能 ◇

この機能は一人暮らしのお年寄りの方に特に役立ちます。トイレや居間等の日常に出入りが行われる場所に赤外線作動センサーを設置し、無活動モニターセンサーとしてゾーン0に設定し、無活動モニター時間をシステムに設定します。その時間に一度も活動が察知されない時にはシステムが自動的に医療ヘルプアラームを発信します。

F :機能キーを押す

:設定キーを押す

06 : 数字キー0と6を押す(表示板に最初に設定された時間が表される)

□□ : 03~72の間で希望のモニター時間数を押す。またこの設定を解除する場合はCキーを押す

例1: 無活動モニター設定時間を30時間にする場合

F → # → 0 → 6 → 3 → 0 → ビービー

例2: 無活動モニター設定時間を解除する場合

F → # → 0 → 6 → C → ビービー

◇ タンパーアラーム発信お知らせ機能 ◇

赤外線感知センサー、ドア窓センサー、ガラス破壊センサー、ワイヤレスキーパッドにはタンパースイッチが内蔵しています。この機能を設定すると警備解除時にはサイレンが作動し(オプション)、在宅/外出警戒モード時にはサイレンと自動通報機能が作動します。

F :機能キーを押す

:設定キーを押す

1 8 : 数字キー1と8を押す(表示板に最初に設定された時間が表される)

0 : 0を押すと機能停止、1を押すと機能開始する

◇緊急アラーム発信お知らせ機能◇

リモコンの緊急ボタンを押したときやワイヤレスキーパッド(オプション)の緊急ボタン機能を使用したときにサイレン(オプション)を作動させることが可能です。(工場出荷時には0の機能停止に設定してあります)

F : 機能キーを押す

: 設定キーを押す

1 1 : 数字キー1と1を押す(表示板に最初に設定された番号が表される)

0 : 0を押すと機能停止、1を押すと機能開始する

◇医療ヘルプアラーム発信お知らせ機能◇

リモコンや基本ユニットの医療ヘルプボタンを押したときにサイレン(オプション)を作動させることが可能です。(工場出荷時には1の機能開始に設定してあります)

F : 機能キーを押す

: 設定キーを押す

1 6 : 数字キー1と0を押す(表示板に最初に設定された番号が表される)

0 : 0を押すと機能停止、1を押すと機能開始する

ドア窓センサー DS-2J

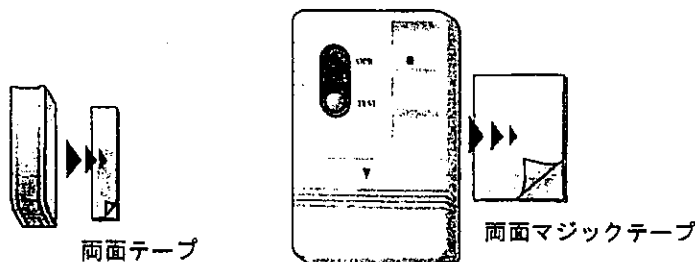
設置方法

1. センサー下部の電池カバーをはずし、単4電池を2本入れます。

重要: マイクロプロセッサを適切にリセットするために、電池交換の際には古い電池を抜いた後、プリント基板上のコンデンサの残留電力を抜くために5秒間テストボタンを押し、その後に新しい電池を入れてください。この手順を行わないとセンサーが正常に作動しないことがあります。

2. p. 11の“コード設定”を行ってください。

3. 付属の両面テープを送信機とマグネットセンサーの裏面に貼ります。



4. 送信機とマグネットセンサーを実際に取り付けます。

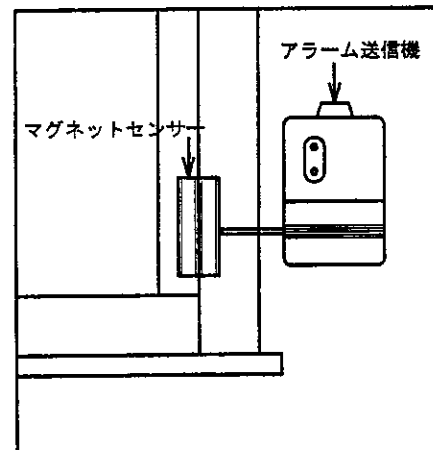
取り付け時の注意:

- ・ 送信機をドアや窓の金属のフレームに取り付けしないでください。アラーム信号の届く範囲が狭まる恐れがあります。
- ・ 各ドアセンサーは「作動中」であるという信号を基本ユニットに送信するように設定されています。この信号が12時間受信されない時には、基本ユニットのLEDが点滅し、センサーの点検を促します。この場合、電池を交換してからセンサーのテストボタンを押して作動を再開してください。
- ・ センサーが取り付けられているドアや窓が開けられると、基本ユニットへアラーム信号が10秒間に3回不規則に発信されます。
- ・ システムを在宅、外出警戒モードにする時センサーが取り付けられているドアや窓が開いていたら基本ユニットの表示板の対応するゾーンのLEDが点滅し、ピー音で警告します。但しこの時点で警戒モードに切り替わっています。
- ・ もし、「タンパーアラーム発信お知らせ機能」(p. 24～25参照)が設定されていたら、電池を交換する時に基本ユニットの“F#180” (p. 24～25参照)か“F8” (p. 21参照)ボタンを押し、一時的に警備を解除してサイレンや自動通報機能が作動しないようにしてください。

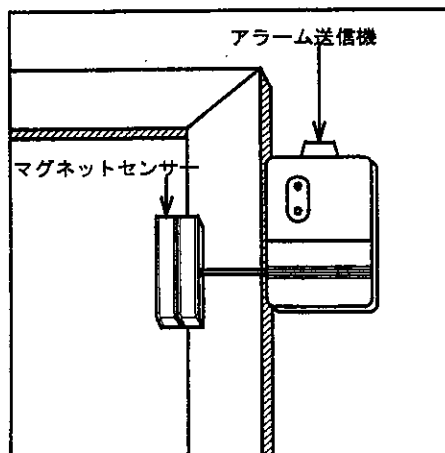
取り付け例図解:

☆窓にドア窓センサーを取り付ける場合☆

送信機側のマグネットセンサーを窓枠に貼りつけ、もう片方のマグネットセンサーを、窓を閉じた時に接するように取り付けます。(マグネットセンサー間の距離は1cm以下としてください)



☆扉にドア窓センサーを取り付ける場合☆



送信機側のマグネットセンサーをドア枠に貼り付け、もう片方のマグネットセンサーをドアを閉じた時に接するように取り付けます。(マグネットセンサー間の距離は1cm以下としてください)

赤外線感知センサー PIR-2J

赤外線感知センサーは“空間”をモニターするセンサーです。モニター範囲内において、通過する人間の身体から発せられる赤外線を検知し、赤外線エネルギーの変化によってアラーム信号を基本ユニットに送信します。

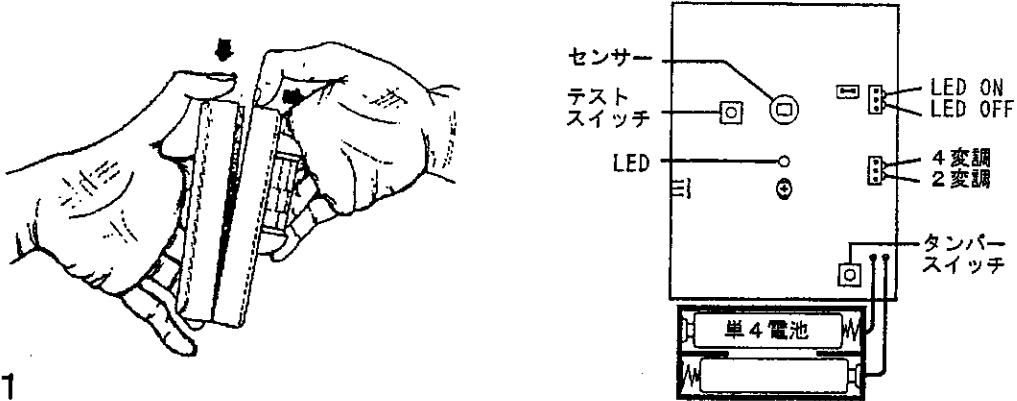


図1

設置方法

1. 図1のようにして前面カバーを取りはずします。
2. センサー下部の電池カバーをはずし、単4電池を2本入れます。

重要: マイクロプロセッサを適切にリセットするために、電池交換の際には古い電池を抜いた後、プリント基板上のコンデンサの残留電力を抜くために5秒間テストボタンを押し、その後に新しい電池を入れてください。この作業を行わないとセンサーが正常に作動しないことがあります。

3. 前面カバーを閉め、センサーが正常に作動を始める(安定化する)まで約5分間のウォーミングアップが必要です。
4. センサーを両面テープを使って監視したい場所に取り付けます。この時センサーと基本ユニットとの距離が電波の受信範囲(遮へい物なしで45m)を超えないようにしてください。
5. 感知領域を確認するために歩行テストを行います。センサー内部のプリント基板上にあるテストスイッチをLEDが“光る”→“消える”→“光る”状態になるまで約3秒間押し続けます。これによりセンサーは3分間のテストモードに入ります。カバーを閉めて普通の歩行スピードでセンサーの感知エリアを横切りその時にLEDを観察してください。テストモードではLEDが常に点灯し動きが察知された時に消えるように設定されています。

■ 感知エリアの調整 ■

センサーの基板を上下にスライドさせることで、感知領域を調整することが可能です。工場出荷時には目盛り2に設定されており、床面から1.7~2.5mの位置にセンサーを設置する場合は調整不要です。この範囲外の位置に設置する場合、下記の表を参照してご調整ください。

高さ(m)	1~1.6	1.7~2.5	2.6~3.2
目盛り	1	2(初期設定)	3

注意:

A) テストモード中にもう一度テストボタンを押し、点灯中のLEDを消すことによってテストモードを

早く終了させることができます。

B) センサーは通常モニター中に一度動きが感知されアラーム信号を送信すると、しばらくの間動きを感知しなくなります。その後、約3分間動きを感知しなければ作動を開始します。これは電力消費を抑え電池の減りを遅らせるためです。センサーが再び作動するには最後の動きを感知してから約3分間を要します。もしセンサーを頻繁に人が通る場所に設置する場合、その場所が無人になってから3分間経つまでセンサーは作動しません。

C) もし、「タンパーアラーム発信お知らせ機能」(p. 24~25参照)が設定されていたら、電池を交換する時に基本ユニットの“F#180” (p. 24~25参照)か“F8” (p. 21参照)ボタンを押し、一時的に警備を解除してサイレンや自動通報機能が作動しないようにしてください。

6. システム連動テスト

基本ユニットでシステムを警備解除モードに設定し、“F8”ボタンを押して「信号連動確認テスト」モード(p. 21参照)にして5の歩行テストを行います。動きが感知されアラーム信号が基本ユニットに受信されると表示板の対応するゾーンのLEDが点灯し、ビー音を発します。

7. パルスカウント(変調電波計測回数)の選択

センサーにはパルスカウント機能が付いており、切り替えスイッチを好みの位置(2か4)に切り替えて調節できます。テストモードの時は自動的にパルスカウント“1”モードになります。

パルスカウント“2”: センサーの感度が最高になります。感知領域が5mを超える時はこのモードを選択してください。

パルスカウント“4”: 約1分間に4回のパルス(変調電波)が感知された時のみ、アラーム信号が送信されます。この設定では様々な環境の変化によるアラームの誤送信を最大限に防ぐことができます。

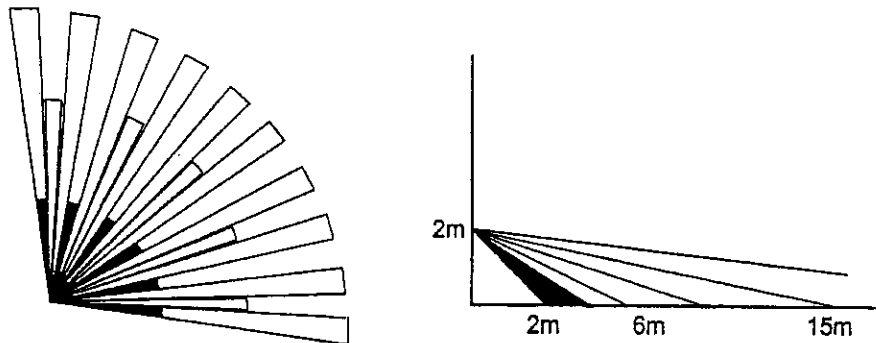
8. LEDのON/OFF

LEDのON/OFFスイッチをOFFの位置にすると、センサー設置後に侵入者に赤外線感知センサーを発見されないようLEDを点灯させないようにできます。ただしこの設定をOFFにしてもセンサーがテストモードの時はLEDが点灯します。

注意:

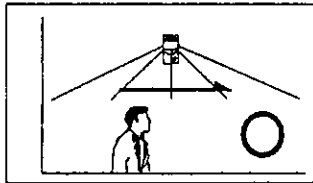
各赤外線感知センサーは「作動中」であるという信号を基本ユニットに送信するように設定されています。この信号が12時間受信されない時には、基本ユニットのLEDが点滅し、センサーの点検を促します。この場合、電池を交換してください。

センサー感知範囲



290 3467
5804

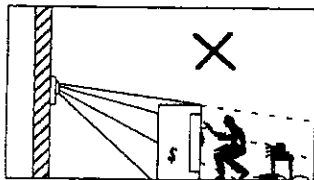
センサー設置場所について



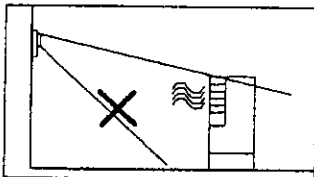
センサーの感度をよりよくするために、センサーを侵入者が向かってくる操作ではなく、横切る動作でセンサーが感知するように設置してください。



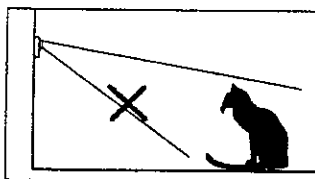
屋外での人の通行により反応を起こす可能性があるため、センサーをガラスに向けて設置しないでください。



センサー反応を妨害する可能性がありますので、感知エリアに障害物(カーテン、スクリーン、大型家具、観葉植物等)を置かないでください。



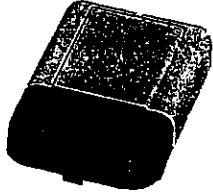
急激な温度変化をもたらす物体(セントラルヒーティングのラジエーター、暖房器具、エアコン、炎を出す物体等)がある場所には設置しないでください。



誤反応を起こしますので、ペット等が感知エリアを横切らない様に注意してください。

ワイヤレス介護・セキュリティーシステムオプション一覧

ワイヤレスセキュリティーシステムLS-9001Aにはより便利にシステムを御使用頂ける様、以下のオプションが用意されています。詳しくは販売店にお問い合わせください。



■ワイヤレスフラッシュ付きサイレン WS-20J



■ガラス破壊センサー GB-2J



■ワイヤレスキーパッド KP-2J

故障かな？と思う前に LS-9001AシステムQ&A

症状	原因と解決方法
センサー類からアラーム信号が送信された時に基本ユニットが反応しない	<ul style="list-style-type: none"> ・各警備モードにする前に各センサーのコードを登録してください。(p. 11~12) ・いったん電池をはずし、アダプターをコンセントから抜いてもう一度接続してください。
電波が届く領域が狭い	<ul style="list-style-type: none"> ・基本ユニットを部屋のコーナーではなく、なるべく中心近くに設置し、アンテナを伸ばしてください。 ・基本ユニットとセンサー類を床面から1.5m以上の場所に設置してください。 ・センサー類をアルミ製の窓枠等、金属板の上に直接取り付けないでください。金属板からは3cm以上離して取り付けてください。 ・基本ユニットを他の電化製品から少なくとも1m離して設置してください。 ・建築素材や内装の種類により電波が届きにくくなる場合があります。
自動通報できない	<ul style="list-style-type: none"> ・登録電話番号が正しいかもう一度確認してください(p. 16) ・トーン式とパルス式の選択が正しくされているかを確認してください(p. 14~15) ・このユニットはアナログ回線専用です。ISDN回線やADSL回線を使用されている場合はアナログ電話回線に接続してください。
基本ユニットが同じ電話番号にリダイヤルし続ける	連絡先の人は音声または電話のボタンを押して応答することを忘れないでください。(p. 15)
音声メッセージが不明瞭である	静かな場所でマイクから5cm離れて録音し直してください。
赤外線感知センサーが通常モードで作動しない	通常時、センサーはアラーム信号を発信した後3分間作動停止しますこれは電池を節約するためです。(p. 27~28)
定期的に医療ヘルプアラームが誤送信され、医療ヘルプLEDが点灯する。	無活動モニターゾーンを解除するかモニター設定時間を確認してください。(p. 24~25)
電話回線がいつも使用中になっており、電話を受けたりかけたりできない。	自動応答設定時のコール数を5回以上に設定してください。(p. 23)
外出または在宅警備モードを設定した時に、基本ユニットが警告音を出していくつかのゾーンLEDが点滅する。	システムを警備解除し、対応するゾーンのドアや窓が閉まっているか確認してください。閉まっている場合はもう一度ドアを開閉してマグネットセンサーの接点を合わせ直してください。(p. 26)
いくつかのゾーンLEDが常に点滅する。	<ul style="list-style-type: none"> ・対応するゾーンのセンサーの電池を点検し、電池交換をしてください。 ・センサーのテストボタンを押して基本ユニットがアラーム信号を受信できているか確認してください。
警備解除した後にゾーン1~8のLEDサインが点灯しない。	表示切り替えスイッチをグループ1にしてください。(p. 8~9)

	<ul style="list-style-type: none"> ・基本ユニットの F キーと C キーを押して LED 表示を消してみてください。
フラッシュ付きサイレンが作動しない	<ul style="list-style-type: none"> ・サイレンのディップスイッチで ON になっている数字と基本ユニットで登録したコードと一致しているかどうかを確認してください。(p. 19) ・基本ユニットの F#02 キーを押して、アラーム発信時間が 0 秒になっていないか確認してください。(p. 22~23)
電話をかけた後に基本ユニットのスピーカーが連続ノイズを発生する。	<ul style="list-style-type: none"> 自動通報されたときに相手側の方は 0 ボタンか 1 ボタンを押して通話を終了してください。(p. 18) 電話で遠隔操作を行った場合 9 ボタンを押して通話を終了してください。(p. 23~24)
システムが故障しているか、またはアラームが誤発信する	表示板の LED の状態を書きとめ、商品と一緒に販売店にお知らせください。

仕様書

基本ユニット LS-9001A

電源:専用ACアダプター(DC12V)

待機時電流:約55mA

使用周波数:426.275MHz

電波到達距離:周辺温度25°C、遮へい物なしで最大約45m

共鳴器:水晶振動子

使用電話回線:アナログ回線(パルス/プッシュ式選択)

通報先登録数:最大7ヶ所

音声録音時間:合計29秒

システム作動開始時間:即時または1~255秒間の猶予時間の設定可能

パスワード:4桁の数字で任意に設定

在宅モード時の部分警備設定場所の選択:PIR-2Jの無効、奇数ゾーンの無効、偶数ゾーンの無効の3つから選択可能

メモリーバックアップ時間:電源を切ってから最低6ヶ月間

システム作動バックアップ時間:内蔵バックアップ電池使用時(選択可)で約5時間

アラーム出力:DC12V/200mA(AC230V/3A リレー接点)

リモコン RC-2JH

ボタン:緊急、外出警戒、在宅警戒、解除の4種類

セキュリティコードの組み合わせ:工場出荷時に4, 782, 969通りの中からランダムに設定

赤外線感知センサー PIR-2J

センサータイプ:デュアル要素

感知角度:110度

有効感知距離:周辺気温25°Cで最大約12m

電源:単4電池2本

電流:待機時約14 μ A;作動時15mA

変調電波回数計測:2回か4回に選択可

ドア窓センサー DS-2J

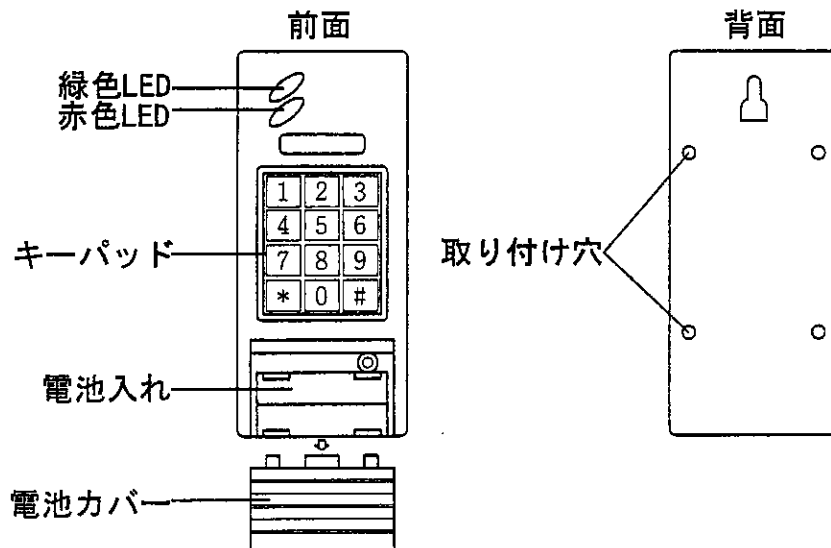
電源:単4電池2本

電流:待機時約2 μ A;作動時17mA

携帯用医療ヘルプボタン PT-2J

KP-2J ワイヤレスキーパッド

KP-2JワイヤレスキーパッドはLS-9001Aの基本ユニットを遠隔操作するための本製品です。タッチパネルの裏にバックライトがついており、暗闇の中でも操作できるようになっております。また、内蔵のタンパースイッチや数字4桁のパスワードの設定により、他人によるキーパッドの分解や操作を防ぐ事ができます。



設置方法

1. 電池カバーを取り外し、単四電池を4本入れて電池カバーを閉じてください。
2. パスワードをKP-2Jにセットします。(次ページ「パスワードの変更」参照)
 - A) 工場出荷時に設定されているパスワード“9999”を押してください。緑色のLEDが点灯します。
 - B) * ボタンを3秒間押し続け、離してください。
 - C) 新しいパスワードを4桁の数字で入力してください。(基本ユニットのパスワードと同じにする事をお勧めします。)
3. 基本ユニットにコード登録をし、システムが連動するようにします。
 - A) LS-9001A取扱説明書のp. 13を参照し、基本ユニットの **F**、**3**、**C** ボタンを押してください。(もし、基本ユニットにもパスワード設定してあれば**F**、**3**、**C** ボタンの前にパスワード入力することを忘れないでください。)
 - B) 30秒以内に設置方法 2 のC)で設定したパスワードを入力します。パスワードが正しければ緑色のLEDが点灯します。その後にキーパッドの3ボタンを押してコード信号を送信します。

- C) キーパッドのコード信号を受信したら基本ユニットが4回ビーと鳴ります。
4. 取り付け場所を選定します。
- A) 子供の手の届かない場所でキーパッドを取り付け易い場所を選びます。
- B) 最初にキーパッド上部のねじ穴にキーパッドを引っ掛けるため、頭を 3mm出してねじを取り付けます。(ねじ別売り)キーパッドを引っ掛けたら電池カバーを外し、電池入れを外に出してキーパッド下部の取り付け穴からねじを閉め、キーパッドを固定します。
- C) 電池入れを元に戻して、電池カバーを閉めます。

LEDの役割

緑色LED: 正しいパスワードが入力されたときに点灯します。また、信号を送信する時に点滅します。

赤色LED: キーを押すたびに点灯します。また、正しいパスワードが20回以内に入力されないときには3秒間点滅し、キーパッドは5分間使用できなくなります。

バックライトLED: 暗闇でも使用できるようにキーを押すとタッチパネルを 10 秒間点灯させます。また電池が切れかかってくると点滅します。

操作方法

ワイヤレスキーパッドは外出警戒モード、在宅警戒モード、警備解除モードの3つのモードにする事ができ、また緊急アラームも発信できる緊急ボタン機能の役目も果たします(基本ユニットのリモコンの緊急ボタンと同じ役割)。

外出警戒モードにするとき: □ □ □ □ 2 → 基本ユニットが4回ビーと鳴る

警備解除モードにするとき: □ □ □ □ 3 → 基本ユニットが7回ビーと鳴る

在宅警戒モードにするとき: □ □ □ □ 4 → 基本ユニットが2回ビーと鳴る

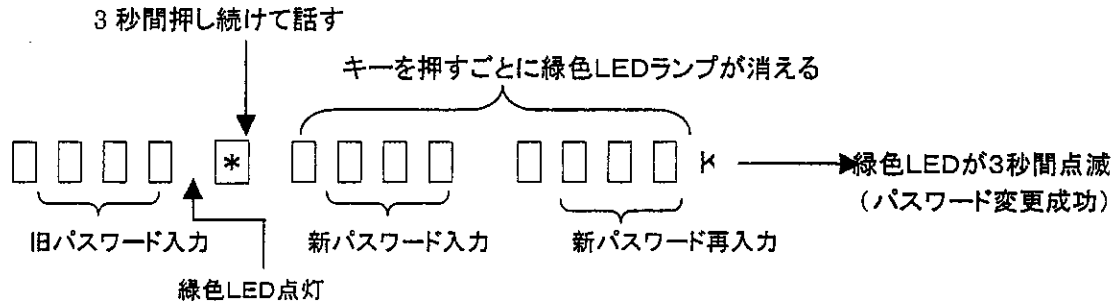
└──────────┘
パスワード

緊急ボタン機能: [*] + [#] 同時に押す(このときはパスワード入力の必要がありません)

注意: キーパッドで基本ユニットを操作する前にLS-9001Aの取扱説明書のp. 21~22を参照し、適切な外出/帰宅時システム操作時間を設定してください。

パスワードの変更方法

1. 基本ユニットの[F] [3] [C] [C] [C] ボタンを押し現在使用しているパスワードのコード登録を解除します。
2. 下の図の様に新しいパスワードを設定します。



3. 基本ユニットにコード登録をし直します。(p1 設置方法3参照)

不正使用防止機能

キーパッドはキーを20回押すまでに正しいパスワードが入力されない場合に5分間使用できなくなる機能を持っております。この機能が働いている間は全ての入力が無効となり不正使用を防ぎます。

また、不正に電池カバーを開けられるとタンパーアラーム信号が本体に送信され、システムが外出/在宅警戒モードの時には自動通報機能が作動し任意でサイレン(オプション)を鳴らす事が、警備解除モードの時には任意でサイレン(オプション)を鳴らす事のみできます(LS-9001A取扱説明書p. 24~25「タンパーアラーム発信お知らせ機能」参照)。

メモ:一度電池カバー閉めると40秒間経ってからのしか再びタンパーアラーム信号を発信する事ができません。テストするときには注意してください。

電池残量通知機能

キーパッドの電池の残量が残り少なくなってくると、キーを押したときにバックライトが点滅します。その時は電池を交換してください。

電池交換方法

電池カバーを開いて、新しい電池と交換してください。そのときに次のことに注意してください。

1. 電池カバーを開けると、タンパーアラーム信号が発信するため、電池を交換する前にサイレンを鳴らさないようにしてください。(基本ユニットのF、#、0、2、0、0、0ボタンを押しサイレン作動時間を0秒にし、電池を取り替えた後設定し直して下さい。LS-9001A取扱説明書p. 22~23「ア

ラーム信号出力時間」参照)

2.古い電池を外した後記録されているパスワードを失うのを防ぐために3分以内に新しい電池を入れてください。3分以内に新しい電池を入れないと登録されているパスワードは工場出荷時の初期設定(9999)にリセットされます。その場合はパスワードの登録を初めからやり直してください。

パスワードのリセット

パスワードを忘れてしまったらキーパッドから電池を抜いて10分間待ちますと、パスワードを初期設定値の9999にリセットする事ができます。

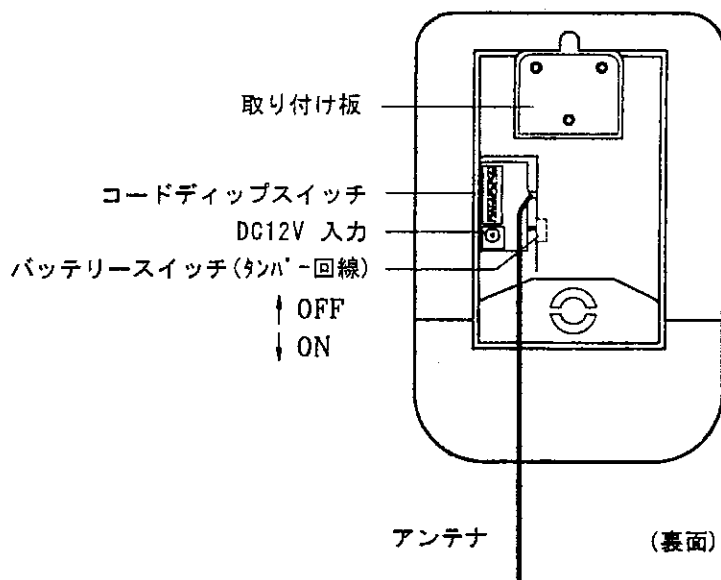
注意:

1.電池カバーを開けると、タンパーアラーム信号が発信するため、電池を外す前にサイレンを鳴らさないようにしてください。(基本ユニットのF、#、0、2、0、0、0ボタンを押しサイレン作動時間を0秒にし、電池を取り替えた後設定し直して下さい。LS-9001A取扱説明書「アラーム信号出力時間」p. 22~23参照)

2.基本ユニットの **F** **3** **C** **C** **C** ボタンを押し忘れてしまったパスワードのコード登録を解除し、本取扱説明書のp. 1設置方法の 2~3 を参照しもう一度基本ユニットにコード登録をし直してください。

WS-20J ワイヤレスフラッシュ付きサイレン

WS-20J ワイヤレスフラッシュ付きサイレンは 110dB の大音量と緊急灯により、ご近所の方に異常事態をお知らせできます。また、内蔵の“アンチ-タンパースイッチ”により不意に取り外された場合にもサイレンが作動します。



取り付け方法

- 工場出荷時に送信コードが設定されています。(初期設定: 1,6,8 のディップスイッチが ON) 送信コードを変更する場合は 2 へ、初期設定の番号でよい場合は 3 へお進み下さい。
- お好みのディップスイッチを ON にして(LS-9001A 取扱説明書 p. 19)を参照)送信コードを設定してください。
- 付属の六角ドライバーでサイレン前面の上方にあるネジをはずし、取り付け板を下にスライドさせ、取り外してください。
- サイレンを取り付けたい壁に取り付け板を使用してネジ穴 3 つ分のしるしを付け、付属のネジ 3 つで板を取り付けます。
- 付属の六角ドライバーでバッテリースイッチを ON にし、電源プラグを接続します。
- 必ずサイレン本体を先に取り付け板にはめ込み、後で AC アダプターをコンセントに差し込みます。

注意: サイレン本体を取り付け板にはめ込む前に電源を入れると、“アンチ-タンパースイッチ”が作動し、サイレンが鳴ってしまいます。

- 基本ユニット LS-9001A の医療ボタン(黄色いボタン)を押してサイレンが作動するかどうか確かめます。(作動したときにサイレン音を止めるには基本ユニットの F + D ボタンを押してください。) *5分0秒*
- アラーム発信時間を10~255 秒の間で設定できます。(工場出荷時は 60 秒)詳しくは基本ユニット LS-9001A の取扱説明書 p. 22~23を参照ください。(ただしタンパースイッチが作動した場合はどんな場合でも 6 分後にサイレン音が停止します。)

例) 医療ボタンの場合 コントロールユニット (黄色いボタン) → (F) (D)



安全に関するご注意

正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ず「取扱説明書」と「使用上のご注意」をよくお読みください。
水、湿気、湯気、ほこり、油煙等の多い場所に設置しないでください。火災、感電、故障などの原因となることがあります。

※ 本製品の仕様及び外観は改良のため、予告なく変更されることがあります。最新版は弊社HPをご覧ください。本カタログは、業務用CCTV機器を販売店様用に編集したスペック集です。

株式会社NSK

〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵1-16-28
TEL . 052-935-6827 / FAX . 052-935-6835
Email . info@nsk-sec.co.jp
HP . <http://www.nsk-sec.co.jp>

[株式会社NSKタスク]

〒132-0035 東京都江戸川区平井4-5-8 NSビル201
TEL . 03-3638-9051 / FAX . 03-3638-9052
Email . nsk-task@tb3.so-net.ne.jp

販売代理店 [施工工事店]